

献 辞

濱田麗史先生は、近畿大学の規程により、2002年3月末日をもって定年を迎えられました。引き続き特任教授としてご活躍され、2004年3月内規により、ご退任と相成りました。今後はお目にかかる機会が少なくなりそうで、私ども後進一同にとっては、やはり寂寥の感を禁じ得ません。先生の「近畿大学は永遠に不滅です」というお言葉は、私どもに大きな勇気を与えてくれます。永年のご指導とご功績に対して、心から感謝の意を表する次第であります。

先生は、本学のご出身であり、1956年3月商経学部卒業、1960年3月大学院商学研究科修士課程修了、公認会計士・藤井四郎会計事務所、商経学部非常勤講師をへて、1969年4月商経学部専任講師に就任されました。学生時代を含めると、半世紀以上にわたり、近畿大学学園で過ごされたこととなります。教員としても、母校で実に永年にわたって、教育と研究に尽力されました。主として、簿記論、会計監査論をご担当され、多数の有為の人材を世に送り出していただきました。濱田ゼミは常に人気ゼミの一つであり、スポーツ学生ゼミ、二部ゼミを含めると、2～3クラス持たれる年度も少なくありませんでした。その指導ぶりは、厳しさの中にも、温かみのある姿勢を貫かれ、本学の建学精神を踏まえた人間教育に力を注いでおられたように存じます。先生を慕う学生は多く、先生の好指導によって、非常にまとまりの良いゼミとの定評がありました。教育者としてのお姿、そして学部の縁の下の仕事にも進んで尽力して下さるお姿には、全く頭の下がる思いで一杯でした。文字どおり、先生は、近畿大学をこよなく愛し、大学・学部の発展に半生を捧げて来られたと言えましょう。

ご専門分野では、簿記・会計学教育のあり方に関心を持ち続けて来られたように思われます。興津裕康教授を代表に企画された、わが国簿記・会計学分野の巨匠へのインタビューの試みなどにも、先生の教育者としてのスタン

スを見て取れます。その取り組みは、後世に語りつがれる貴重なオーラルヒストリーの成果と敬服いたします。

先生は、社会活動の分野でも大いにご活躍され、今日に至っています。保護司を委嘱されたのをはじめ、人間味溢れる指導者としての社会活動は、やはり先生の教育観に支えられたものと拝察できます。その社会的貢献の高さは、つとに法務大臣賞受賞、大阪市民表彰（社会教育功労賞）などの栄に輝いたことから窺えるところでもあります。

先生は、ご定年後、経済学部所属の特任教授になられましたが、学問研究と教育のあり方が問われている現在、簿記・会計学者としての生き方を身をもって示された先生の近畿大学への熱い思いを、これからの学部の教育・研究に活かして参りたいと存じます。

本号は、瀧田麗史教授退任記念号として企画編集されました。本学専任教員のみならず、外部の高名な先生方からも多数の玉稿をいただきました。ここに感謝と敬意をこめて、本論文集を教授に捧げます。

末筆ながら、先生の一層のご健康とご活躍を祈念いたします。併せて、この記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員会の労に厚くお礼申し上げます。

2004年3月

経済学部長 武 知 京 三